

（午前9時30分 開議）

○議長（石橋英和君）皆さん、おはようございます。

ただ今の出席議員数は21人で定足数に達しております。

○議長（石橋英和君）これより本日の会議を開きます。

#### 日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（石橋英和君）これより日程に入り、日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において1番 松浦君、4番 楠本君の2人を指名いたします。

#### 日程第2 一般質問

○議長（石橋英和君）日程第2 一般質問を行います。

順番14、9番 上田君。

〔9番（上田良治君）登壇〕

○9番（上田良治君）皆さん、おはようございます。先日、国際オリンピック委員会において、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会開催都市に東京が選ばれました。これから、新しい歴史が始まるとともに、数え切れないドラマ、感動が生まれることを期待いたします。スポーツを通じて、日本がもっと元気になれることを願います。これまで熱いエールをいただいたたくさんの方々に、心より感謝を申し上げます。

それでは、通告に従いまして一般質問を行います。

大項目、高齢者の食生活を生かした健康づくりについてというのと、県道山内恋野線及び県道橋本五條線の整備についてという2点、質問したいと思います。

まずはじめに、高齢者の食生活を生かした健康づくりについておただしを申し上げます。

2013年、厚生労働省によると、日本人の平均寿命は男性が79.59歳、女性86.35歳で、平均寿命は年々伸びています。都道府県別では、男女ともに長野県が長寿1位で、男性80.88歳、女性87.18歳です。男性の2位は滋賀県の80.58歳、3位は福井県の80.47歳、女性の2位は島根県の87.07歳、3位は沖縄県の87.02歳です。和歌山県は、男性79.07歳で37位、女性は85.69歳で45位となっています。平均寿命の短い県は男女とも青森県で、男性が77.28歳、女性は85.34歳で、男女の平均寿命の差が8.06歳と、全国で最も大きくなっています。

また、厚生労働省は敬老の日を前に、100歳以上の高齢者が過去最多の5万人を突破したと報じました。日本は、世界に例を見ないほど速く高齢化社会に突入しています。100歳以上の方は、調査を始めた63年に153人だったのが、98年に1万人、03年に2万人、07年に3万人、09年に4万人を突破しています。

また、長年、沖縄県民が世界一長寿とされ、100歳以上の方が大勢いましたが、沖縄古来の食生活が駐留外国人の食事の影響を受け、平均寿命が下がり、内地のほうが平均寿命が上がっている現状にあります。

ところで、国内最高齢記録は京丹後市の木村次郎右衛門氏で、1897年（明治30年）4月19日生まれの116歳であります。長寿世界一としてギネスに認定されております。これは日

本の誇りと思います。木村氏は、長男の妻（84歳）と孫の妻（59歳）との3人暮らしでした。立ち上がる時には介護が必要で、車椅子の移動が多かったそうですが、食事は1日3食、多くのメニューを少量ずつ食べるのが特徴で、10を越す小皿が並び、魚一切れ、豆3粒、豆腐、ニンジン一切れ、プリンなどを「おいしい」と話しながら食べる、それが長寿の秘訣「食細くして命永かれ」がモットーとされています。

100歳まで生きるには、食生活、環境、体づくりなど、日常どのようなことに心がけているのかなど、地元の京丹後市が100歳以上の高齢者に、食生活に関するアンケート調査を実施して分析し、「長寿レシピ集」を作成し、市民の健康づくりに役立てて、郷土食を生かした「長寿のまち」をPRする予算を計上されました。

平均寿命世界一の日本は、医療・介護の発達とともに病気で長生きの人が多のも悲しい事実ですが、90歳を超えても元気で働いている人も多く、どのような方が長寿でいるのかなど調査・分析し、橋本市の健康づくりに役立てていただきたく、質問をいたしたいと思います。

①本市では、高齢者は何人おられますか。②本市の平均寿命は何歳ですか。③長寿の秘訣を調査・分析されていますか。④市民の健康づくりに役立つ長寿食レシピを作成してはいかがですか。

2点目の、県道山内恋野線及び県道橋本五條線の整備についておたしをいたします。

県道橋本五條線は、恋野から上田間において用地を取得し、順次工事に着手し、早期完成に努めていただいておりますが、整備完了はいつ頃になりますか。

恋野橋のかけ替えについては、地質調査等を完了し、いよいよ予算化されるようですが、

ルートや新橋の設計はどのように進められますか。恋野橋から国道24号までの間は、これまで局部改良していただいておりますが、国道24号から隅田中学校北側までの区間は、JRの踏切拡幅も含めた整備改良が必要です。

市としてもスクールゾーンの安全を図るとともに、朝夕の通行、大型車両の走行が多い区間であるため、県やJRに対し早急な改良を要望していただきたく、質問をいたします。

①県道橋本五條線の整備状況について。②恋野橋のかけ替えの進捗状況について。③国道24号から隅田中学校北側までの改良要望についてをおたし申し上げます。

以上で、1回目の質問を終わります。

○議長（石橋英和君）9番 上田君の質問項目1、高齢者の食生活を生かした健康づくりに関する質問に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（枅谷俊介君）登壇〕

○健康福祉部長（枅谷俊介君）皆さん、おはようございます。

議員のおたしについてお答えいたします。

1点目に、橋本市における高齢者は何名おられますか、についてですが、高齢者とは、65歳以上の人と定義されています。

橋本市は、昨年9月にはじめて高齢化率が25.0%を超え、人口の4人に1人が高齢者となりました。今年8月末現在、女性9,924名、男性7,508名、あわせて1万7,432名おられます。このうち75歳以上が、女性5,368名、男性3,202名、あわせて8,570名、90歳以上が、女性740名、男性198名、あわせて938名です。

2点目の、橋本市の平均寿命は何歳ですか、についてですが、橋本市における平均寿命については、平成17年度（旧橋本市、高野口町合算）女性85.6歳、男性78.7歳、平成22年度が女性85.1歳、男性78.6歳となっています。

3点目の、長寿者に対し、長寿の秘訣を調

査・分析されていますか、についてですが、長寿者に対しては、年度内に満90歳になられる方、また満100歳の誕生日を迎えられる方に対して、長寿をお祝いしています。平成18年度以降、100歳の誕生日を迎えられた方が、女性64名、男性11名います。(うち33名が生存)

本人、家族等に対し、現在の状況はもちろんのこと、これまでの食生活、仕事、趣味、長寿の秘訣などを聞き取り調査を行っています。分析は特に行ってはいませんが、長寿の秘訣として、毎年健康診断を忘れずに受けること、お腹八分目の食事、体をまめに動かすこと、好き嫌いをせず生きがいを持って生活を送ること、くよくよしないこと、信心深く、感謝の気持ちを持って生活すること、腹を立てることなく、腹が立てば相手の立場に立って考えること、などを挙げられています。大半の方が、好き嫌いをしないことや、お腹八分目を保つことなどを長寿の秘訣に挙げられています。

4点目の、市民の健康づくりに役立つ長寿食レシピを作成してはいかがですかということですが、100歳の長寿祝いのときの聞き取り調査においても、大半の方が好き嫌いをしないことや、お腹八分目を保つことなどを長寿の秘訣に挙げられていることから、長寿食レシピの作成は考えていません。

しかし、長寿を迎えるためには、若い頃からの食生活が大切と考えますので、今後とも健康を保ち増進する食生活について、さまざまな機会をとらえ啓発を進めてまいります。

○議長(石橋英和君) 9番 上田君、再質問ありますか。

9番 上田君。

○9番(上田良治君) お答えをいただきました。高齢者については、いろいろ定義があるようですが、本市橋本市は、65歳以上を高齢者と定義されているということで順次説明を

いただいたわけでありましたが、今、説明いただいた中で、90歳以上の高齢者については938名おられるということで答弁いただいております。それから、100歳以上の方については、現在33名の方がおられるということで、これは明らかに、橋本市も高齢化社会に突入しているということが言えるんじゃないかなと思えるところでございます。

その昔は、人生50年と言われた時代もあったわけですが、現在では100歳以上の方がどんどんと社会に進出しておられるということで、世界では、だいたいこれ、世界の推計100歳以上、45万人いるそうですね。45万人。世界で。日本でも5万人以上おられるということで、日本で100歳以上になる人を調べてみますと、センテナリアンと呼ぶそうですね。それから110歳以上の方をスーパーセンテナリアンと、こう呼ぶようでございます。毎年だいたい1,000人ほどのペースで、センテナリアンの方が増えておられるということでございます。

そういった中で、本市も100歳を迎えられた方については、過去の算定から現在まで、どのように100歳の方が増えてきたのかなということも関心があるんです。そういったことで、今後についての動向も、どういうふうが増えていくのかなということをお聞かせ願いたいなど。まず、そういったことを答弁願いたいと思います。

○議長(石橋英和君) 健康福祉部長。

○健康福祉部長(柘谷俊介君) 100歳以上の方が増えているということで、どういう調査とか、どういう動向かというおたただしだと思いますが、本市では100歳以上の方、合併後から調書をとっております。そのデータを今後積み重ねまして、分析しまして利用していきたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（石橋英和君） 9番 上田君。

○9番（上田良治君）それで、今後については過去の算定をもとに、そういったデータをぜひとも出していただきたいと思います。今後どのように増えていくのか。今までどのように増えてきたのかというの、一体いつ頃から100歳の方が誕生されたのかなというの、知りたいところでございますので、よろしくをお願いします。

それと、現在の本市の最高齢の方も、できたら、差し支えなかったらお聞かせ願いたい。それから、過去の最高齢はだいたいどれぐらいまであったのかなというの、わかればお聞かせ願いたいと思います。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（柘谷俊介君）最高齢の方のおたしでございしますが、本市で最高齢は女性でございまして、城山台在住の方で105歳でございます。それから、男性は102歳で古佐田在住の方でございます。

恐れ入ります、過去のことはちょっと調査不足でわかっておりません。申しわけございません。

○議長（石橋英和君） 9番 上田君。

○9番（上田良治君）現在、105歳ということで、これ、日本の今、最高齢者が116歳ということで、もう11年もされますと橋本市がギネスブックに載る可能性もございしますので、そういったことで、いろいろいつまでも健康で長生きできるような施策を考えていただきたいということで、今回質問をさせていただいてございます。

2番ですね。本市の平均寿命については、今、男性・女性、これが男性が79.35歳ですか、女性が86.02歳でよろしかったでしょうか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（柘谷俊介君）本市の平均年齢でございますが、平成22年度で男性が78.6

歳、女性が85.1歳でございます。

○議長（石橋英和君） 9番 上田君。

○9番（上田良治君）平成22年のデータということでございますね。今の一番新しいのがそれなんかな。男性が78.6歳、女性が85.1歳ということで、これもまた過去の推移からの程度平均寿命が延びてきたのかなというの、これも関心があるところでございます。そういったことはわかりますでしょうか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（柘谷俊介君）恐れ入ります、昔のデータがちょっと手持ちではございませんのでわかりかねます。申しわけございません。

○議長（石橋英和君） 9番 上田君。

○9番（上田良治君）県内の平均寿命、私のデータでいいますと、男性が79.07歳、女性が85.09歳と、私いろいろと調べさせていただいたんですが、これについて橋本市と比べますと、男性は県の平均寿命よりは低いですね。女性についても県の平均寿命より低いということがわかるんですけども、この平均寿命が県より下回っておるとするのは、これは正しいですか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（柘谷俊介君）議員がお調べになったのが正しいということでございますので、正しいと認識しております。

○議長（石橋英和君） 9番 上田君。

○9番（上田良治君）そういったことで、また当局側の、正しいデータもお調べになって、また後ほど回答いただきたいと思います。

それと、健康寿命については、健康な方も施設に入所されてる方もおられるということで、そういった介護が必要となる期間を差し引いた寿命、健康寿命というのもデータとして出ているわけでございますけども、それに比べると、いろんな全国と比較すると、橋本

市は男女ともに、日常生活動作が自立していない期間が非常に長くなっております。特に女性については、支援や介護が必要となる期間が男性に比べて2倍となってございますけれども、こういったことについてはどういったことが考えられるのでしょうか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（柘谷俊介君）議員おただしのように、健康寿命が長いというのが、一番本当の長寿じゃないかなと私も思うんですが、先ほどご答弁させていただきましたように、健康長寿を迎えるためには、若い頃からの食生活が大変大切だと思います。その若い頃的生活習慣によりまして、高齢になってから、寿命は延びますが健康な状態が保てないということが進んでいるのが原因で、健康寿命と本来の寿命の間の差が広がっているんだと考えます。

本市では、そういうことのないように、先ほど答弁させていただきましたような、さまざまな取り組みをさせていただいておりまして、健康、食生活に関するさまざまな取り組みの中で、健康な状態で生活されるように努めているところでございます。

以上でございます。

○議長（石橋英和君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）ありがとうございます。

まさしく、食は薬、健康の源ということで、そういったことで、いろいろと長寿レシピもこしらえていただきたいなということで質問してございます。

それから3番ですけども、長寿の秘訣を調査・分析されておりますかということでお聞かせを願いましたら、市長はじめ担当課の職員が、100歳の長寿の祝いに自宅に訪問されて、祝い金とか花束とか、それから家族の方に、いろんな100歳まで長寿の秘訣をいろいろと、本人にも聞くという、そういった調査をされ

ておるということでございますけれども、これは、いつ頃から開始されておるのでしょいか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（柘谷俊介君）このデータは、合併後、調書を取り始めましたので、合併後でございます。

○議長（石橋英和君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）木下市長の時代からということでございますか。ありがとうございます。

100歳の自宅に訪問されて、いろいろとお祝いを兼ねて、非常にご苦労さんでございます。

せっかくそうやって汗をかいて自宅に訪問されて、いろんな調査をされておるんですが、その調査・データ分析までいってないかわからないんですが、そのいろいろと聞き取りをしたものが、役に立ってないと私は言いたいですよ。だから、今まで仕事がどんなことをされてきたのとか、食生活、それから趣味とかいろんなことを聞かれて、それを記入していると思うんですけども、そのことをただ持ち帰ってきて保管しておくだけで、それを分析して、どういった方が長寿であられたのかという分析をして、やっぱり皆さんに公表していただきたいなと、私はこのように思うんです。そういったことをお願いしているところでございます。

それで、いろいろと、先ほども部長のほうから答弁をいただいたんですけども、いろいろと、どんな人が長寿であったのかを調べた方がございます。それで、血液型もいろいろと、星座についても、食事についても、性格についてもあるそうです。それで、どんな人が長寿であるのかといいますと、血液型でいいますとB型の人が長寿でございます。それから、星座は射手座。食事については好き嫌いのない人。性格は頑固な人ですわ。それか

ら、自己主張の強い人。マイペースの人。酒・たばこは無理してやめないで、のみみたいときに適度にのむ人がいいそうです。それから、自分好みのことを楽しむ人。それから、仕事で長生きする人はお坊さん、学校の先生。男性については色気を忘れない人。女性についてはおしゃれを忘れない人だそうでございます。

こんなデータ、いろいろあるんですよ。ほんで、食事については、沖縄県が全国で一番死亡率が低いと言われておるんですけども、やっぱり豚をよく食べるというんですね。それから、黒豚もこれ、いいそうです。それから海藻をよく食べたり、豆腐をよく食べるのもいいそうです。それから野菜をよくとって、薬草もいいそうです。それからお茶をよく飲むのもいいそうです。漬物は食べない方がいいそうです。身体をよく動かして、体を動かしてということで、沖縄の高齢者たちは食べ物のことを命の薬と、こういうふうに呼んでるんですね。

そういったことで、いろいろとこういうふうには調べられた方もおられるということでもありますので、橋本市もいろんな調査をしているんだから、いろんなこういうことが分析すると出てくると思うんですよ。そういったことで、ぜひともこういったことをまた調べていただきたい。その調査の中に、こういったいろんな血液型も、それから毎日の習慣、趣味とかも、いろいろと入れていただきたいということで、お願いをしたいと思います。そういったことも項目に加えていただけますか。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（柘谷俊介君）おっしゃったことを肝に銘じまして、調書を分析できるようにしてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（石橋英和君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）ぜひともよろしく願います。

それで、今回、④ですね。市民の健康づくりに役立つ長寿レシピ、これを作成してはどうですかということで、先ほど答弁の中では、ちょっとこれについてはようせんよというようなお答えいただいたんですけども、これについては、先ほど言いました京丹後市の木村氏ですね。ギネスブックの116歳の方がおられる京丹後市が、100歳以上の高齢者の食生活を調査・分析して、長寿食のレシピを作成すると言ってございます。これを作成することによって、市民の健康づくりに役立ててもらい、郷土食を生かして長寿のまちをPRすると。それから、地域の健康な食材を生かした弁当も作成していくということで、高齢化社会の時代に、こういった取り組みも必要になってきているんじゃないかなと私は思っております。

食育に携わる調理師の方、それから栄養士、保健師、また農業関係の皆さん、それから民間の力もお借りしながら、前向きにこういったことを今後ご検討願いたいと思いますが、市長、このことについて、いかがでございますか。

○議長（石橋英和君）市長。

○市長（木下善之君）上田議員の非常に熱心な、資料をまたいただきまして、そして、できるだけ、やはり長寿ということはいいことであるわけでございます。長寿でも、施設に入っておるとか寝たままというのは、私は100歳以上のところに行きまして、半分以上そんなんですね。あと4割ぐらいは、まあまあ元気な状態ですが、一番今までに経験あるのには、高野口の大野地区で、女の方です。100歳のとんと行きましたんだ。そうしたら、ミカンとりに行っておるわけや。ほいで、もう来てくれたんかいよと、わしも忙しいん

よというようなことや。ほいで、ミカンとりもうて、ミカン入れて帰ってきて、そして床の間へさっと上がってね、わしまだ忙しいんで、早よやってよというようなことや。それは勇ましいし、いろいろお尋ねしましたら、やはり食べる食事については本当に何でも食べるというんですか、そういうふうに言うてましたし、特にミカンとか果物ですね。これはもう絶対欠かさないんでと言ってましたわよ。非常に熱心な方で、まだ今でも生存しておると思いますけども、よく行っているいろいろ聞いて、そうして参考になることは、我々もまた老人会やその他のときには、やはりちょいちょいと話にちょっと花を咲かさせていただいています。

今後につきましても、やはりそういう点について、市としてしっかりと取り組んでまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（石橋英和君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）ありがとうございます。

今後については、お年寄りが積み重ねてきたいろんな知恵を生かしていただいて、医療に頼らず、いつまでも元気で暮らせるような新しい施策に力を発揮していただきますようお願い申し上げます、この質問を終わります。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目2、県道山内恋野線及び県道橋本五條線の整備に関する質問に対する答弁を求めます。

建設部長。

〔建設部長（松浦広之君）登壇〕

○建設部長（松浦広之君）おはようございます。

県道橋本五條線の進捗状況のご質問にお答えします。

事業主体である和歌山県に確認しましたところ、恋野地内から上田地内の間における、恋野橋関連を除く未整備区間2箇所について、

現在工事を行っていますが、いずれも平成25年度中に完成する予定であると聞いています。

次に、恋野橋のかけ替えの進捗状況については、同じく事業主体である和歌山県に確認しましたところ、平成24年度2月補正予算で事業化され、橋梁の測量調査設計業務費が予算化されています。今後、ルート並びに橋梁の詳細について、地元並びに関係機関と調整を図りながら、早期完成に向け進めていく予定であると聞いています。

次に、国道24号から隅田中学校北側までの改良要望のご質問についてお答えします。

議員おただしのこの区間については、本市としても重要であると認識しており、県道橋本五條線の整備が進み、また、恋野橋のかけ替え事業も動き出したことから、道路管理者である和歌山県をはじめ関係各機関に、早期実現に向け強く働きかけてまいりますので、議員各位におかれましても、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（石橋英和君）9番 上田君、再質問ありますか。

9番 上田君。

○9番（上田良治君）ありがとうございます。

1番の県道橋本五條線の整備状況については、平成25年度中に完成ということで大変ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

2番ですね。恋野橋のかけ替えの進捗状況についてなんですが、これは2月補正で測量の予算、測量が実施されて、また予算化されるということですが、これの恋野橋ですね。かけ替えの進捗の状況については、地元区、これの新しい、今の既存の県道山内恋野線、山恋線ですね。こちらの既存のルートにつないでいくと。そういった条件も最初の段階から出ておるわけですが、この恋野橋、

北と南があるわけでございますけれども、南から北にかけてのルート、これについては現状の県道山内恋野線につないでいくという、こういったことでよろしいでしょうか。

○議長（石橋英和君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）この恋野橋かけ替えにつきましては、事業主体である県、それから地元の区長、あるいは学校関係の方、それから市も参画いたしました、そういった検討委員会的なものがございます。そういった中で聞いておる話では、現道に接続するというふうに聞いております。

ただ、今回のご質問いただくにあたって、再度県のほうへ確認しましたところ、橋梁の位置も含めて、ルートについては検討中であるというふうな回答でございます。

○議長（石橋英和君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）ありがとうございます。

それと、恋野橋については、いろいろとこれから設計段階にも入っていくわけなんですけれども、こういった橋梁の設計をしていく場合に、一般の人の意見も反映できるのかなというのを、私ちょっとお聞かせ願いたいと思うんですよ。いろいろと新しい橋をかけ替える場合に、夢、思いがあるわけですが、やはりその夢のある橋を、新しい橋本市をPRしていく上で、そういった設計ですね、そういったことについても意見が反映されるというような形になるのでしょうか。

○議長（石橋英和君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）あくまで、この橋梁につきましては県が事業主体でございますので、本市の立場ではなかなか言いにくい部分があるんですけれども、あくまで一般論の話として申し上げますと、このぐらいの橋梁になりますと、どういうタイプの橋梁でいくかということ、今回の設計業務の中で恐らく検討することになると思います。そこらあた

りというのは、専ら経済比較でございます。建設時のコストと、それから管理上のコスト、こういったものを総合的に勘案して、どのタイプが一番合理的であるかということで橋梁のタイプを決定していくことになります。

それから、補助事業をいただいての事業になるはずでございますので、まずそういったところで橋梁のタイプ等が決定していくことになりまして、道路幅員等につきましても同様でございます。

そこで、よくあるのが、いわゆる意匠関係というんですか、見た目、やっぱり地域性ですとか、地域の声を聞いてということになるんですけども、このあたりになりますと、いわゆる補助対象外とかいう部分もどうしても出てきますので、事業主体のお考え次第で、地元の意見がどの程度反映されるかどうかというのは、今後の県も含めた中での協議になるのかなというふうに考えます。

○議長（石橋英和君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）今後については、やはり橋本市の観光名所となるような橋の形をつくり上げていただきたいと思います。特に恋野地区については、中将姫という伝説もございます。糸の懸橋とか、恋野というすばらしい恋野橋、今の名前もいいわけですが、やはりこの橋を渡れば恋がかなう橋とか、そういったことで観光に来ていただけるような、そういったことも考えていくのがいいんじゃないかなと思いますので、またそういったことを要望していただきたいと思います。

そしてまた、この橋については、今、県が進めておりますサイクリングロード、これも自転車が通るといようなルート設定になってございます。それから、秋祭りにはだんじりも行き来をするような橋でございまして、そういったことも十分勘案しながら、今後の名称というか名前については、そういったこ

とも県のほうに言っていたきたいと思います。よろしくお願ひします。

それから3番、国道24号から隅田中学校北側までの改良要望についてなんです、これについては、建設部長も先ほど答弁いただきましたが、恋野橋かけ替え、現状の山内恋野線につないでいくような形になるのではないのかなということで答弁いただきましたけれども、今まで国道24号から恋野橋の区間までについては、局部改良を県のほうにお願いして、危険なカーブ、そういった危険な箇所から随時、今、2箇所ほど工事をしていただいて、拡幅をしていただいて、安全・安心な道にしているんですけども、やはり隅田中学校ですね、それからJRを挟んで、踏切を挟んで国道24号までの区間については、朝夕中学校の生徒たちが自転車で通学したり、そういった送り迎えを親御さんがしたり、そういったことでかなり交通渋滞、踏切、それから信号機を含めた交通渋滞が朝夕には発生してございますので、大変危険なルートとなっております。

そういったことについて、今後、恋野橋のかけ替えと、このルートは、まだはっきりとわからないということでございますけれども、同時にこの、今言った危険な箇所については、拡幅、そういったものを県のほうに強く要望していただきたいということでございます。

そういったことについて、今までも市のほうから要望を県のほうに投げかけていただいておりますけれども、これについては、隅田中学校からJRの踏切までの区間というふうに聞かされてございます。それと、JRのほうには、まだ要望をかけていただけていないのかなというようなことございますので、その辺のところについては、どのようなことになってございますか。

○議長（石橋英和君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）県のほうへ要望させていただいておりますのは、議員ご指摘のとおり、踏切から南の部分だけでございます。ただし、今回、橋本五條線の県道が概ね改良が完了し、恋野橋のかけ替えも事業化され動き出した中で、橋本市としての外線というんですか、外回りの道路が三石台垂井線から京奈和の橋本インターを経て24号線へ出て、そして恋野橋を渡って、河南の県道を通って外周道路が完成すると。道路ネットワークを考えますと、今後につきましては、国道24号からJRの踏切までの部分というのも非常に重要な部分になってきます。

それからまた、地元等の県も入った協議の中でも、やはり隅田中学校の生徒さんたちを考えた場合、やっぱりその辺の通学路としての安全性ということも、相当地元の意見としても強いものがございまして、今後は、それぞれの事業化が見えてきたわけですから、市といたしましても、県と一緒にしながら、あるいは地元の方と協議もしながら、この踏切、現在4m程度しか実は幅員ないんですけども、この点も含めて、国道24号までの道路につきましても、やはり強く県のほうへ要望していきたいというふうに考えます。

○議長（石橋英和君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）特に国道24号から恋野橋の、この山内恋野線については、地元の芋生区、中島区、それから垂井区も絡んでくるんですね。真土区も絡んでくる。こういった込み入ったところでございますので、特に隅田地区の、いろいろと開発対策委員会であるとか、またそういったところについても話を持って行っていただきたいと思ひます。

今後については、県道橋本五條線からこの国道24号に至るアクセス道路は、恋野橋のかけ替えに伴いまして安心・安全が確保できるように、県道の拡幅と、それから踏切の拡幅

も含めまして、未整備区間におきましては早期整備が不可欠と考えておりますので、県やJRに対しまして、市のほうから強くまた要望をお願い申し上げたいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（石橋英和君） 9番 上田君の一般質問は終わりました。

この際、10時35分まで休憩いたします。

（午前10時18分 休憩）

---

（午前10時35分 再開）

○議長（石橋英和君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

健康福祉部長より発言の申し出がありますので、これを許します。

健康福祉部長。

○健康福祉部長（柘谷俊介君） 先ほど答弁の中で、後に回答させていただくということになっておりました資料について報告させていただきます。

橋本市の平均寿命でございますが、国勢調査によりますと、平成2年が男75.8歳、女81.7歳でございます。平成7年は男76.6歳、女83.1歳。平成12年が男78.0歳、女84.6歳ということでございます。それから、過去の100歳以上の人数のデータでございますが、平成18年が9名の方、平成19年が15名、平成20年が12名、平成21年が7名、平成22年が12名、平成23年が5名、平成24年が15名、平成25年が、今現在のところ17名になる予定でございます。

先ほど合併後、データをとり始めたと答弁させていただきましたが、合併以前も聞き取り調査でデータはございました。が、現在残っているのが合併後のデータのみということでございます。

どうも申しわけございませんでした。

以上でございます。